

「2010 愛知環境賞」について

1 目 的

資源循環や環境負荷の低減を目的とした、先駆的で効果的なく技術・事業・活動・教育の事例を、企業、団体及び県民から募集し、優れた事例に対する表彰を行うとともに、広く紹介することによって、新しい生産スタイルや生活スタイルを文化として社会に根付かせ、資源循環型社会の形成を促進するものです。

（「愛知環境賞」の特徴）

- 資源循環及び環境負荷低減に向けた、企業、団体及び県民による、先駆的で効果的なく技術・事業・活動・教育を募集し、優れた事例を表彰して紹介します。
- 実施済みの事例だけでなく計画中の事業（循環ビジネス）も対象とし、優れた計画には、事業化支援を行います。
- 「愛知環境賞」は、愛知万博開幕を控えた2005年（平成17年）2月に第1回を実施し、今回が第6回目です。

2 募集対象者

企業、団体またはグループ（個人の方の応募はできません。）

3 募集対象事例

省資源、省エネルギー、新エネルギー及び3R（リデュース：発生抑制、リユース：再利用、リサイクル：再生利用）など、資源循環や環境負荷低減に関する、先駆的で効果的な技術、事業、活動及び教育とします。

なお、計画段階にある事業（循環ビジネス）についても応募できますが、愛知県内での実施可能性の高いものに限りします。

また、これまでの愛知環境賞に応募（受賞）された事例についても、技術の改善や事業の進捗などに応じて再応募が可能です。ただし、前回よりも上位の受賞とならない場合には表彰の対象とはなりません。

4 審査方法

有識者による「選考委員会」で審査、選定します。審査のポイントは以下のとおりです。

- | | |
|------------|--|
| ○技術・事業 | |
| 〈先駆性・独創性〉 | 既存の技術・事業と比較した際の新規性、優越性、独自性 |
| 〈環境負荷低減効果〉 | 廃棄物抑制、CO ₂ 排出削減などの環境負荷低減効果 |
| 〈実績・将来性〉 | 大企業は製品販売、技術活用などの実績、中小企業はその将来性、発展性など |
| ○活動・教育 | |
| 〈先駆性・独創性〉 | 既存の活動・教育と比較した際の優越性、独自性、先進性 |
| 〈協働可能性〉 | 行政、大学、企業など多様な主体との連携、協働可能性 |
| 〈継続性〉 | 今後の活動の持続可能性 |
| ○分野共通 | |
| 〈社会性・波及性〉 | 環境に配慮した新しい生産スタイルや生活スタイルの構築に向けた啓発効果、アピール度 |

5 賞の種類

金賞、銀賞、銅賞、中日新聞社賞、名古屋市長賞（各1件）及び優秀賞（7件）

ただし、表彰件数は応募状況等により変動することがあります。

優れた循環ビジネスの計画については、「あいちエコタウンプラン」への登載及び事業化に向けての支援を行います。

6 主催

愛知県

7 共催

環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）、中日新聞社

8 後援

経済産業省中部経済産業局、環境省中部地方環境事務所、名古屋市、

名古屋商工会議所、社団法人中部経済連合会

9 選考委員会

(◎委員長 ○副委員長)

◎ 架谷 昌信	名古屋大学名誉教授・愛知工業大学教授
○ 笠倉 忠夫	元豊橋技術科学大学教授
荒山 裕行	名古屋大学教授
松井 恒雄	名古屋大学エコトピア科学研究所長
田島 雅敏	経済産業省中部経済産業局環境・リサイクル課長
小野寺 秀明	環境省中部地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課長
内川 尚一	名古屋商工会議所企画振興部長
河野 義信	社団法人中部経済連合会技術部長
竹内 弘之	環境パートナーシップ・CLUB総合事務局長
飯尾 歩	中日新聞社論説委員
岩田 勇二	愛知県産業労働部技監
藤井 敏夫	愛知県環境部長
伊藤 勝至	愛知県環境部資源循環推進監